

# 「陸軍省大日記」(大正編)

防衛研究所が所蔵している「陸軍省大日記」の大正年間分が、昨年から逐次刊行されているので、簡単に紹介する。

陸軍省大日記とは、陸軍省が発簡、または接受した文書を、陸軍大臣官房が編冊して保存していた簿冊の総称である。防衛研究所に保存されているのは、慶応四年から昭和二〇年までの約七七〇〇冊である。内訳は、明治期が約五〇〇冊、大正期が約七〇〇冊、昭和期が約二〇〇冊である。このうち明治二年は〇冊、明治三年と昭和一八、二〇年は数冊あるのみである。

この陸軍省大日記は、空襲を避けるために、昭和一七年までのものが、東京都南多摩郡柚木村柚木(現在の八王子市下柚木)の陸軍省地下倉庫に疎開・保管されていたが、戦後、進駐した米軍に接收され、米本国に移送、ワシントンの国務省公文書部に保管されていた。

昭和三三年四月、交渉の結果米国から返還され、防衛研究所戦史室が受領・保管し、現在は防衛研究所図書館が所蔵している。

柚木村地下倉庫に疎開せずに手元に置かれていた昭和一八、二〇年の

## 原 剛

文書は、終戦の際の焼却指令により、焼却されてしまった。このため、昭和一八、二〇年の文書は、数冊しか残っていない。

返還された陸軍省大日記は、その後、戦史叢書編纂に活用され、また研究者にも利用されていたが、昭和五年から一般に公開されるようになった。

この度、陸軍省大日記の大正年間ものが「陸軍省大日記史料集」として刊行されることになったのである。編集は、防衛研究所戦史部に長く勤務した服部雅徳調査員である。

大正年間の陸軍省大日記は、軍事機密大日記・密大日記・永存書類甲輯・永存書類乙輯・欧受大日記・西密受大日記・西受大日記などが約七〇〇冊あるが、今回史料集として刊行されるのは、これらのうちの軍事機密大日記・密大日記・永存書類甲輯・乙輯の政策的事項を主体にしたもの三九〇冊の文書を、陸軍省の分類に従って編纂したものである。

その分類区分は、皇室、外賓、議會、外交、儀礼・婚姻・葬祭、官制・官規、編制、服制・徽章、兵籍、兵役、召募・召集、補充、官等・分限、

補任、名簿、教育、検閲、演習、服務・休暇、衣糧、通信、徵発・軍需、動員、作戦である。

昨年第一期（一〇卷）として刊行されたのは、皇室から官制・官規までである。以後、各期一〇卷として第四期まで刊行予定である。出版社は東洋書林である。

この史料集の構成は、各分類区分ごとに、文書の要旨、索引、別紙からなる。別紙は、特に重要と思われる文書を原文を縮小して掲載したものである。

今後、これまで比較的未開拓であった大正時代の陸軍の研究に役立つことを期待したい。